

上野城（伊賀文化産業城） 天守閣の上棟式映像

発行 伊賀市教育委員会事務局文化財課歴史資料係 Tel・FAX 0595-41-2271
〒518-0031 三重県伊賀市長田 2312 番地の 1

はじめに

今回紹介する 16mm フィルムは、令和 3 年（2021）7 月に荒木良太氏から伊賀市へ寄贈された資料群の中から発見されました。荒木家は元々上野相生町にて料理旅館栄楽亭^{えいらくてい}を営んでおり、その関係資料（帳簿類、領収書・請求書類等）や荒木家関係資料（書簡類、冠婚葬祭関係等）の中に、今回の 16mm フィルムが含まれており、荒木氏によりデジタルデータ化されました。フィルムの内容は、昭和 8 年（1933）11 月 19 日に行われた上野城（伊賀文化産業城）天守閣^{じょうとうしき}の上棟式の様子を映したものです。

上野城の変遷

上野城のある上野丘陵には、平楽寺や守護大名であった仁木氏の館などが建てられていましたが、天正伊賀の乱にて焼け落ち、その後筒井定次や藤堂高虎によって跡地に城が築かれました。

しかし慶長 17 年（1612）の大風雨によって完成間近の天守は倒壊し、その後の豊臣氏の滅亡や武家諸法度^{ぶけしよはつど}の制定により、上野城の普請は再開されず、天守は完成しないまま天守台があるのみとなりました。

明治 6 年（1873）の廃城令によって上野城は廃城となります。しかし、廃城当初から旧跡を残そうという動きは多くあり、明治 29 年（1896）頃から実業家の田中善助のもと、公園としての整備が行われました。そして昭和 7 年（1932）に衆議院議員であった川崎克が私財を使って天守閣の復興を計画。同年 10 月 14 日に地鎮祭、翌年 11 月 19 日に上棟式を行い、昭和 10 年（1935）10 月 18 日に伊賀文化産業城として完成しました。



写真① 現在の上野城

上野城上棟式について

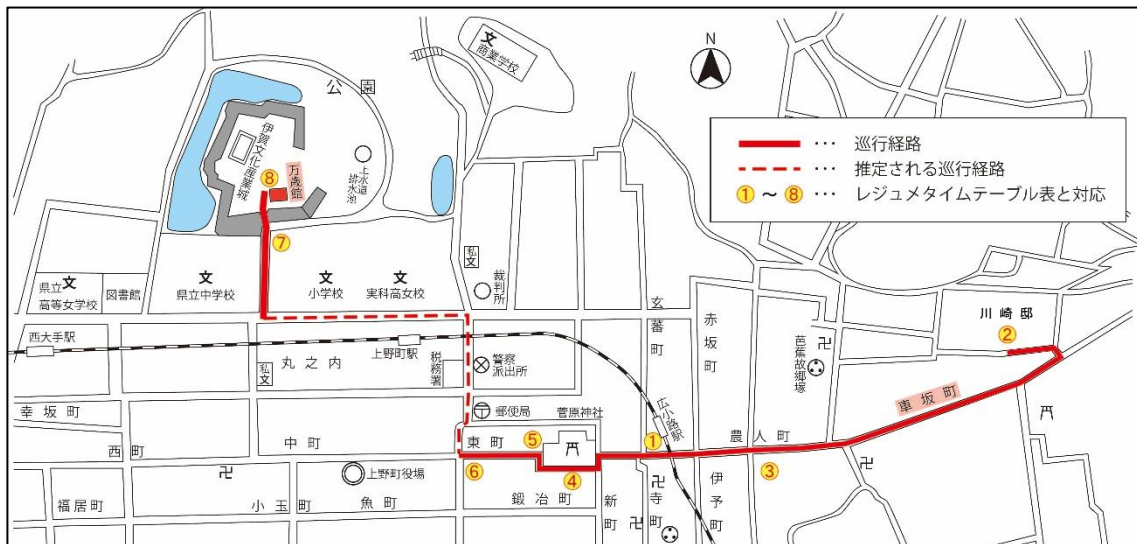
当時の新聞には上棟式の様子について、県知事や三重と滋賀の県選出代議士、県会議員他大勢が招かれて盛大に式を行うという旨が書かれています。

当日は早朝に煙火が3発上げられ、上棟式が行われることを町中に知らせます。川崎克の支援団体である大阪克堂会こくどうかいの人々や来賓は、広小路駅に到着後（図①）、午前10時頃に上野車坂町にある川崎克の邸宅（図②）に参集しました。



写真② 川崎家家族写真(昭和12年頃)
左から秀二、勉、康子、克
出典：『川崎克伝』

午前10時半頃に川崎邸から行列をなして町中へ練り出し（図②③）、途中菅原神社（上野天神宮）を通して（図④～⑥）上野城公園内にある万歳館へと向かいます（図⑦⑧）。行列は工事総監督である片山亀太郎や菅原神社宮司の山中栄太郎が先導し、川崎克や川崎家長男の勉つとむ、次男の秀二（当時早稲田大学在学中のため映像では学生服姿）、以下大阪克堂会、来賓と続いています。映像では練り歩く行列に対して、多くの人々が見物に訪れているのが見て取れます。途中から雨が降ってきた様で、傘を差して歩く人々の姿もありました。行列は正午までに万歳館へとたどり着き、関係者は式壇の最終準備を行っていきます。



図「昭和16年（1941）上野の市街略図」より作図

大勢の群衆が見守る中、午後1時より式の開始です。施主と参列者は地上と天守閣を繋ぐ棧橋を渡って、城の大棟へと上がります。式は下壇と上壇で行われ、下壇の式は大棟の中にある大黒柱の根元、上壇の式は大玄関の棟木下にて行われました。

下壇では根柱^{ねはしら}祭りが行われ、式は簡略^{かんりゃく}させて修祓^{しゅうばつ}の儀と切麻散米^{きりぬささんまい}の儀だけを行いました。どちらも人と土地を祓い、特に式が無事に終了することを祈願する儀式です。大黒柱の根元に大餅や祭壇が設けられ、その周りで儀式が行われました。大餅は阿山郡の町村長らの寄贈で、映像にも大きな丸い二重の餅が少し映っています。

下壇の儀式終了後、参列者各々が拍手礼拝を行い、上壇へ向かうため棧橋を登りました。映像には飛行機による祝賀飛行らしき様子が映されており、東側から飛行して天守閣の上をぐるりと旋回している様子が見て取れます。



写真③ 上棟式短冊

上壇では古式に則^{したが}って儀式が行われました。棟木の下に設置された御幣や大棟札、破魔矢^{はまや}等が置かれた祭壇の前に、神社関係者と参列者が並びます。上壇の儀式として、まず参列者一同が着席し祓^{はらい}勸^{かん}請^{じょう}として塩撒きや供物奉納^{のりと}等を行った後に、工匠長のお祓い等を行います。次に上棟祝詞を挙げ、施主による玉串奉奠^{たまぐしほうてん}、参列者の玉串奉奠の順に行っていました。玉串奉奠を終えると工匠らによる棟槌の式が行われます。そして工匠長が木綿綱柱と屋上神座への礼拝を行い、次いで施主、参列者の順に御神酒^{おみき}をいただきました。最後に参列者一同が拍手と礼拝を行い、上壇での式が終わります。

その後、天守台の横に設置した櫓から、上棟式に集まった人々に対して、施主達が餅撒きを行いました。それらを終わると、上棟式の全行程が終了となります。また城以外の町中でも手踊りや諸芸大会が行われ、花火も上がったことから上棟式が町を挙げて行われた様子が見て取れます。

おわりに

このフィルムは荒木良太氏の父で画家の荒木寛(1924～1999)が所有しており、元々は妻の実家である出口家が撮影、所有していたものを譲り受け、現代まで大切に保管されていました。撮影を指示したのは上棟式にも出席していた出口文郎(1891～1944)で、当時大阪克堂会の役員を担っていたこともあって撮影をしたと考えられます。上棟式に関しては、以前より文書や写真等によりどのような行事、儀式を行っていたかを知ることが出来ましたが、これまで映像資料の存在は知られていませんでした。当時の様子や行動、風俗等を映像で見て把握することが出来る研究資料として、大変貴重かつ重要なものとなります。

[参考文献]

(財)伊賀文化産業協会編 『伊賀上野城史』 1971 年
江戸川乱歩編 『川崎克伝』 1956 年
伊賀市編 『伊賀市史』 第三巻通史編近現代 2014 年

[映像提供]

荒木良太

[調査協力]

岡森明彦、北出楯夫、福井健二、福田和幸

[特別協力]

川崎二郎、(公財)伊賀文化産業協会

(敬称略)